

様式2

令和2年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

【校訓】 自律・創造・協働

中間評価

ミッション	地域社会・産業界に貢献する人材の育成	今年度の学校重点目標	1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現 3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成 4 開かれた学校づくり 5 学校業務改善の取組
目指す生徒像	自主自律の精神を持ち、 他者を思いやる創造力豊かな工業人		

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 □	(1) 生徒指導の徹底	・生徒指導の成果が出てきており、学校が全体として落ち着いた状態にある。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、生徒の規範意識が向上する。 ・保護者の理解も求め、頭髪服装指導で指導を受ける生徒が減少する。	・生徒「自分のエチケット・マナーが向上した」保護者「本校はルールやマナーを守らせる指導が適切に行われている」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・規律ある工業人の育成を目指し、自覚やマナーの向上を図る。 ・進路意識を常に持たせ、頭髪服装指導等を活用し、規律ある生活が送れるようにする。	・頭髪服装指導で指導を受ける生徒が減少してきた。 ・年度始めの臨時休校等により、各種オリエンテーションが実施できず、規律の徹底が不十分。 ・スマートフォンやSNSの使用の在り方について、一部にモラルに欠ける生徒がいる。	B	・ものづくりに係わる安全及び自律した社会人としての観点から頭髪や服装を含めたマナーの向上を引き続き指導する。
	(2) 時間や規律を守る生徒の育成	・保護者・生徒会と連携して、遅刻指導を行っている。 ・各室への入退出の挨拶が適切に行われている。	・保護者との連携を密にして、生徒の遅刻発生数が減少する。 ・生徒自ら挨拶ができ、言葉遣いなどマナーが向上する。	・2学期までの遅刻合計1回以下の生徒が80%以上ならばA。 ・教職員「生徒の挨拶が良い」「生徒の言葉遣いは良い」等アンケートの集約結果が全体の80%以上ならばA。	・遅刻の多い生徒への家庭連絡を徹底し、基本的な生活習慣の徹底を図る。 ・様々な機会を捉えて挨拶の習慣化を図る。	・遅刻指導の対象となる生徒は1学期末時点ではいなかった。 ・おおむね生徒は挨拶を率先して行っている。 ・規律やマナーに欠ける生徒も見られる。	B	・今後も、アンケート調査等を活用し、気になる生徒には早期に対応する。また、必要であれば保護者と連携して、落ち着いた生活を実現する。 ・引き続き、学年集会やクラス指導を行い、規律やマナーの向上を促す。
	(3) 部活動と生徒会活動の活性化	・各部は活発に活躍し、生徒会は各種行事でリーダーシップを発揮している。	・部活動の奨励と強化を図り、加入率・稼働率が向上する。 ・部活動や生徒会活動を活性化し、心身共にたくましい人が育つ。	・部活動の加入率が80%以上、部活動稼働率が80%以上ならばA。 ・保護者「本校は部活動が活発である」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・部活動加入調査を実施して、加入状況の把握に努め、部活動加入率の向上を図る。 ・生徒の積極性を涵養し、社会に参画する態度を養い、社会人としての素養を身につける。	・年度当初の部活動加入率は86%。 ・事前の活動計画に沿って計画的に行なった。 ・中止になった大会が多く、活動成果を記録として残せなかった。	A	・コロナウイルス感染症対策を行いながら取り組む。
2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現	(1) 生徒全員の希望進路の実現	・生徒が主体的に進路を選択できるよう計画的・組織的な進路指導を行っている。	・米子工業高等学校キャリア教育全体計画によって、3年間を見通した進路指導計画を作成し、きめ細かい指導を行う。 ・生徒に的確な情報を提供し、すべての生徒の進路を保障する。	・生徒「自分は進路指導を受けて、就職先・進学先を決める際に役立つ」保護者「本校の進路指導等は就職先・進学先を決める際に役立つ」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・進路状況や進路に必要な知識・技能に係わる情報を、LHRや進路講演会などを通じて適宜提供する。 ・徹底した面接指導、個別指導を実施し、効果的組織的な進路指導を行う。	・コロナウイルス感染症の影響で予定していた進路に関する行事が中止となった。 ・放課後にキャリア塾を開催し、進路決定に必要なスキルを高めた。 ・就職試験前の面接指導を専門教科の職員から全職員に拡大して指導した。	B	・1次内定できなかった生徒への丁寧な指導による進路決定の実現。
	(2) インターンシップ及び県内外の企業研修の充実	・地元企業見学、インターンシップ、県外企業研修旅行など様々な体験を通して、適切な職業観の育成を図っている。	・地元企業見学では、実際の現場を見学することにより、生徒の専門科目に対する興味関心と日々の学習意欲が高まる。 ・2学年全員が行うインターンシップでは、企業現場での実習を通して、専門的な知識や技術・技能に触れ、生徒の進路に対する意識が高まる。 ・県外企業研修旅行では、県外の大手企業を見学することにより、生徒の職業観が育ち、所属学科や専門科目に対する興味関心が高まる。	・生徒「インターンシップは勉強になったし、充実していた」「県外企業研修旅行は勉強になったし、充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・保護者「地元企業見学、県外企業研修旅行、インターンシップ、課題研究等が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・インターンシップでは実際の現場で作業をさせることにより、仕事の大切さ・意義・困難さを体験させる。また産業界での知識や技術・技能を学ばせることにより、日々の学習への意欲や積極性を喚起する。 ・地元企業を見学させることにより、産業全般に対する認識を深めさせ、将来の進路選択に一層明確な目標を立てさせる。 ・県外企業研修旅行を実施することにより、企業に対する専門的な知識や技術・技能を見聞させ、所属学科や専門科目に対する興味関心を喚起する。	・コロナウイルス感染症の影響で、様々な行事において受入を断られた。 ・地元企業の見学を初めてオンラインで実施予定。 ・県外企業見学は1月に延期し、受入企業を探している段階。 ・インターンシップは11月に延期して一部の科で実施予定。 ・オンラインによる応募前職場見学を初めて実施した。	B	・企業研究をオンラインやホームページ等を活用して実施する。
	(3) 基礎学力の向上と授業改革	・SPI小テスト、基礎力診断適性検査等を活用し、基礎学力の定着を図っている。 ・ICTの活用など生徒の学習意欲を喚起する授業を工夫している。	・SPI小テスト・基礎力診断適性検査等を活用し、生徒の基礎学力と、就職試験等に対応できる力をつける。 ・生徒が授業に興味関心を持ち主体的に授業に参加する。	・生徒「SPI小テストに一生懸命取り組んだ」等集約結果が80%以上ならばA。 ・生徒「自分は、授業(座学)が理解できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・SPI小テストの低得点者などに対して補習授業を行い、基礎学力の定着を図る。 ・他校の視察や校内の授業公開などで研鑽を積み、生徒の意欲を引き出す授業を展開する。	・SPI小テストを実施。本年度はテスト結果をより詳しく生徒へフィードバックした。 ・Find!アクティブラーナーを導入し、職員が様々な学校の授業を見学したり、授業方法について学ぶ環境を整備。 ・Teamsによる遠隔授業やタブレットを活用した授業など、ICTを活用した新しい授業の在り方にチャレンジした。	B	・SPIⅢの導入を検討。 ・Find!アクティブラーナーを活用してオンラインによる授業力向上の研修を実施。 ・ICTの活用方法をさらに学び、今後想定される遠隔授業や課題への対応方法を検討する。

年 度 当 初					評 価 結 果			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成	(1)ものづくり人材育成事業の充実・発展	・各種ものづくりコンテスト・各種大会などに参加し、成果を上げている。	・高校生ものづくりコンテストなどへの参加を奨励し、上位へ入賞する。 ・各種大会への出場を目指す課題研究等の活動を支援することで、生徒が高度な技術へ積極的に取り組む。	生徒「自分は実習を通じて、技術・技能が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA ・保護者「本校は将来にわたって役立つ教育が行われている。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・ものづくりに対する意識を向上させながら、ものづくりコンテストへの参加を推奨し、上位入賞を目指す。 ・ものづくりの楽しさを経験し、興味関心を深め、技術・技能の更なる向上を図りながら、将来の産業界の人材育成につなげる。	・本年度のものづくりコンテストは中止となったため、取組の成果を記録に残せなかった。 ・次年度の中国大会出場に向け練習を開始した。 ・専門以外の教科においても、ものづくりに関連する取組の意欲は高い。	B	・身に付けた技能を衰えさせないためにも継続して練習を行う。
	(2)専門的資格取得の推進と「課題研究」の充実	・令和元年度ジュニアマイスター取得者実人数は41名であった。	・ジュニアマイスター取得者が増加する。 ・各科で資格取得意欲を喚起し、補習参加率が向上する。	・実人数25名以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。	・資格取得を推進し、生徒や産業界の要請に応える。 ・資格取得の推進に向け、補習や社会人講師の充実を図る。	・資格取得に意欲的に取り組む生徒は増加傾向にあるが、多くの試験が中止となった。 ・環境エネルギー科では、第2種電気工事士に2年生全員が挑戦した。	B	・資格試験の実施時期を考えながら受験計画を再考する。
	(3)5S(整理 整頓 清掃 清潔 しつけ)と安全教育の徹底	・実習時に5Sと安全教育を連動させて指導している。	・5Sや安全に留意できる人材が育つ。 ・5Sの指導、安全教育、環境教育、社会規範の指導を連動して指導する。	・生徒「5Sの習慣が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「安全教育について概ね徹底できた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・各教科の特性に合った5Sの取り組みを徹底して行う。 ・実習や座学を通して、安全教育を徹底し、安全に対する意識を日頃より高める。	・各実習室の使用状況は良い。 ・ゴミの減量化を実践できている。 ・コロナウイルス感染症対策として校内の複数箇所に消毒液を設置した。	B	・5Sの個々の内容を説明できるよう指導し、5Sの取組を深める。
4 開かれた学校づくり	(1)地域社会への貢献	・地域貢献活動を各科が積極的に行っている。	・工業の実習で培った技術と成果を地域に還元する。	・教職員「ものづくりに関して、近隣地域と連携して概ね成果が上がった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・地域に根ざした工業高校として、地域貢献活動に積極的に取り組む。	・公的施設への白線引きやゴミストッカー、ベンチ、足踏み式自動消毒装置等製作品の寄贈による地域貢献を実施。	A	・今後も地域の課題を見つけて地域に貢献していく。
	(2)中学校などの異校種との交流・連携	・中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習を通して本校教育についての理解が深まっている。	・様々な異校種連携を通して、中学校や地域社会の工業教育についての理解が深まる。 ・出前授業等を行うことによって、中学生・小学生に本校の教育内容への理解が進む。	・教職員「中体験・学校公開等を通して、中学校や保護者へ本校の内容を概ね伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・中学生体験学習や学校説明会で、ものづくり教育についての理解を深めるよう内容を充実させる。 ・出前授業や高大連携等の機会を捉え、工業高校に対する理解を深める。	・中学生体験学習はコロナウイルス感染症の影響で中止。 ・学校見学会は例年より多くの参加者申込あり。 ・保育園、小中学校との連携は現在未実施。 ・コロナ禍における避難訓練を啓成小学校と合同で11月に実施予定。	B	・リモート交流や手作りおもちゃの寄贈等を検討。
	(3)本校の教育活動の発信	・学校から積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。	・ホームページ、まちこみメール、マスメディア等を通じ、学校情報の発信をタイムリーに行う。	・保護者「家庭への連絡がきめ細かく行われた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・ホームページの内容を定期的に更新するなど、積極的な情報発信に努める。 ・メール配信をこまめに行うことで、保護者へ情報を迅速に伝える。	・コロナウイルス感染症に関する情報発信が主となった。 ・大会や検定試験が中止となり、発信する情報が少なかった。 ・PTA活動を発信できた。 ・リモート授業の様子を県教委のYoutubeで公開。	B	・課題研究の取組や日常生活についての情報を発信し、本校の日常をアピールすることを検討。 ・部活動の取組や大会結果を積極的に発信する。
5 学校業務改善の取組	(1)学校業務の効率化推進	・業務準備等によって、勤務時間の長大化につながっている。	・優先順位の低いものについて1つ以上の業務削減。	・月当たりの時間外業務を平成29年度比で15%削減ならばA。	・行事や校務分掌を一覧化、優先順位の洗い出し。 ・業務準備等に過剰なものがないかの点検。	・コロナウイルス感染症の影響により、出張や行事が減少したが、コロナウイルス感染症への新しい対応業務が増えた。	C	・コロナウイルス感染症への対応を参考に、本当に必要な取組を見直してみる。
	(2)長時間勤務者の解消	・休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。	・休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。	・部活動に係る時間外業務80時間以上勤務者の解消ならばA。	・管理職員による各部の休養日、活動時間の把握、遵守の働きかけ。	・部活動の実施時間に関する規定が定められ、また、コロナウイルス感染症による臨時休校等によって削減目標値を達成している。 ・一部にはまだ時間外業務が多い職員がいる。	B	・今後も継続して部活動の計画的な実施を行う。 ・資料の共有化等、時間外業務を削減する具体的な方法を検討。

評価基準

アンケート結果によるもの (部活動関係も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
-----------------------------	---